



2019年 3月期

決算説明会

2019年5月13日

本日の内容

- ◆ 2019年3月期 連結業績結果
- ◆ 2020年3月期 連結業績予想
- ◆ 2020年3月期 重点取組み

日頃は皆様から、多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年3月期連結業績結果					
(億円、%)					
■ 経営成績 ■	2018年3月期	2019年3月期	増 減 額	前 期 比	予 想 比
売上高	5,961	6,033	+72	101.2	100.4
営業利益	193	172	△21	89.0	98.5
経常利益	209	190	△19	90.6	100.1
純利益*	133	107	△26	80.3	102.4

*親会社株主に帰属する当期純利益
(予想は2019年2月7日決算短信発表時に公表したもの)

■ 配 当 ■

普通配当	40円	連結配当性向	25.2%
------	-----	--------	-------

 雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

【2019年3月期連結業績結果】

まず、2019年3月期、連結業績結果は、增收減益になりました。
配当は1株当たり40円といたします。

2019年3月期連結業績結果～総括～					
取組結果					
<ul style="list-style-type: none"> ●家庭用チーズの価格改定の実施 ●機能性ヨーグルトと機能性食品の販売拡大 ●成長に向けた設備投資の実施 					
課題					
<ul style="list-style-type: none"> ●コストアップへの対応 原料乳価格の引上げ、物流コストなど 					

 雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

【2019年3月期 総括】

2019年3月期は、チーズの価格改定や機能性ヨーグルトの販売拡大などに努めました。

また、成長に向けた設備投資を実施し、中期経営計画に沿った取り組みを実施しました。

一方、原料乳価格や物流費などのオペレーションコストの増加など、コストアップへの対応が課題となりました。

2020年3月期 取組み施策

環境変化への対応

- 市乳商品の価格改定の実施

事業ポートフォリオの変革

- 重点カテゴリーへの取組み強化による販売拡大
- 海外事業の拡大
- ニュートリション事業の拡大
- 生産体制の再構築

 雪印メグミルク Copyright © Meiji Shion Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

4

【2020年3月期 重点取組み】

2020年3月期の取り組みについて説明いたします。

まず、足元のコストアップを中心とした環境変化への対応として
本年4月、市乳商品の価格改定を実施しました。

また、今期の収益改善および中長期的な利益成長の柱として、
チーズ、ヨーグルトをはじめとする重点カテゴリーの販売拡大など、事業ポートフォリオの変革に取り組みます。

2020年3月期 連結業績予想

(億円、%)

■ 経営成績 ■	2019年3月期	2020年3月期	増減額	前期比
売上高	6,033	6,150	+116	101.9
営業利益	172	180	+7	104.5
経常利益	190	195	+4	102.6
純利益※	107	120	+12	111.6

※親会社株主に帰属する当期純利益

■ 配当 ■

普通配当	40円	連結配当性向	22.6%
------	-----	--------	-------

 雪印メグミルク Copyright © Meiji Shion Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

5

【2020年3月期連結業績予想（通期）】

2020年3月期通期の連結業績予想については、
売上高6,150億円、営業利益180億円、経常利益195億円、
親会社株主に帰属する当期純利益120億円を見込みました。
配当は、1株当たり40円を予定しています。

2020年3月期は、中期経営計画の最終年度となります。
環境変化などの影響で、当初計画からみると営業利益は下回りますが、
価格改定の実施や、チーズ、ヨーグルトの販売拡大などにより
今期は、前期比104.5%、7億円の増益予想としました。

これらの取り組みを着実に実行し、「長期ビジョン2026」達成につなげてまいります。

2020年3月期の事業別取組み



1. 乳製品事業分野

バター、油脂、チーズ（国内・海外）



2. 市乳事業分野

牛乳・乳飲料、ヨーグルト、果汁・野菜・清涼飲料、デザート



3. ニュートリション事業分野

粉ミルク（国内・海外）、機能性食品など



4. 飼料・種苗事業分野

飼料、種子（牧草・飼料作物・野菜）、造園など

Copyright © Meijirk Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

6

事業別取組み～2020年3月期業績予想（乳製品）～



2020年3月期 通期業績予想

【乳製品セグメント】ニュートリション事業を含む

(億円、%)

	2019年3月期	2020年3月期	増減額	前期比
売上高	2,410	2,509	+99	104.1
営業利益	117	121	+4	102.9

▶ 家庭用チーズの主力商品の販売拡大

▶ チーズのボーダレス展開の推進

Copyright © Meijirk Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

7

【乳製品事業分野（業績予想）】

乳製品事業分野を中心とする乳製品セグメントは、
增收増益を見込んでいます。

家庭用チーズにおける主力商品の販売拡大やチーズのボーダレス展開を
進めます。



【乳製品事業分野（2019上期 チーズ）】

家庭用チーズにおいては、6P、カマンベール、さけるチーズなど、主力商品の販売拡大を図ります。

また、価格改定の影響を受けたスライスチーズ、ベビーチーズなどは、キャンペーンや新商品の導入により販売強化に取り組みます。



【乳製品事業分野（チーズ）②】

チーズ市場全体は、家飲み需要や健康効果への注目などにより着実に伸びています。

当社もチーズを重点カテゴリーとして、プロモーション展開などにより、さらなる成長を目指します。

事業別取組み ~2020年3月期の取組み（チーズ）~

事業別取組み
～2020年3月期の取組み（チーズ）～

▶ チーズのボーダレス展開の推進

雪印メグミルクインドネシア社
(MSBI) と
アダーデライツオーストラリア社
(UDA) の連結子会社化

雪印メグミルクインドネシア社
による第3国輸出

Copyright © Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

10

事業別取組み ~2020年3月期業績予想（市乳）~

事業別取組み
～2020年3月期業績予想（市乳）～

2020年3月期 通期業績予想
【飲料・デザート類セグメント】

	2019年3月期	2020年3月期	増減額	前 期 比
売上高	2,797	2,809	+12	100.4
営業利益	31	39	+8	123.1

(億円、%)

▶ 價格改定の実施
▶ ヨーグルト：ガセリ菌 S P 株ヨーグルト商品群の販売拡大
▶ デザート：個食デザートの強化

Copyright © Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

11

【中期経営計画 チーズのボーダレス】

チーズ事業のボーダレス展開については、今期は、雪印メグミルクインドネシアとアダーデライツオーストラリアの2法人を連結化し、将来の利益成長に向けて、取り組みを進めていきます。

また、雪印メグミルクインドネシアから、シンガポールやタイ、マレーシアへのチーズの輸出を拡大していきます。

【市乳事業分野（2020年3月期 業績予想）】

市乳事業分野についてです。

市乳事業に該当する飲料・デザート類セグメントにつきましては、增收増益を見込んでいます。
価格改定の実施や、ガセリ菌 S P 株ヨーグルト商品群の販売拡大に取り組みます。

事業別取組み～2020年3月期の取組み（市乳）～



▶ 価格改定の実施



<対象商品>

市販用：牛乳類、乳飲料、ヨーグルト、デザート …… 64品
宅配用：牛乳類、乳飲料 …… 15品

<改定内容>

市販用：メーカー希望小売価格 …… (改定率：2.2～6.1%)
宅配用：メーカー出荷価格 …… (改定率：1.7～4.0%)

Copyright © Meiji Milk Group Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

12

事業別取組み～2020年3月期の取組み（市乳）～



▶ ガセリ菌SP株ヨーグルト商品群の販売拡大

新商品の投入とターゲットを意識した
新しいコミュニケーション売場の運動



香川真之さんを起用

▶ 個食デザートの強化

商品力の強化



13

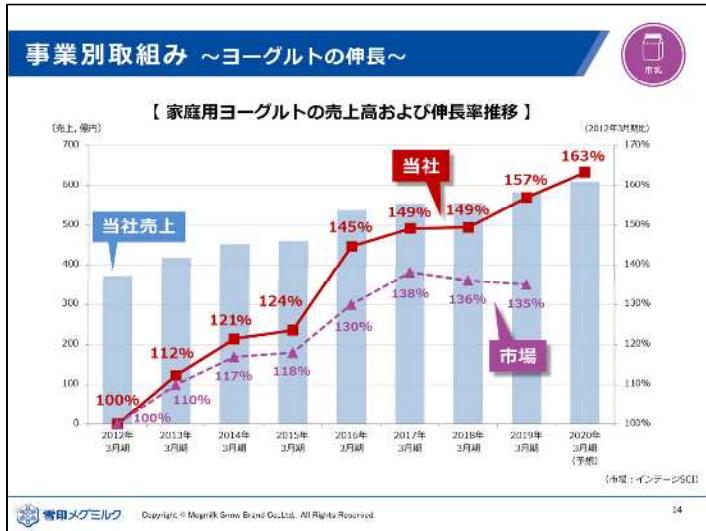
【市乳事業分野（2019年上期 価格改定）】

価格改定の実施については、原料乳価格の引き上げに加え、
物流コストや労務費なども上昇しており、
企業努力による吸収の範囲を超えることから、
4月1日出荷分より、合計79品で、価格改定を実施させていただきました。

【市乳事業分野（2019年上期 ヨーグルト）】

ガセリ菌S P株ヨーグルト商品群についてです。
シリーズのさらなる拡大を目指して、甘くないプレーンタイプの個食、「生乳仕立てプレーン」を3月に新発売いたしました。
そして、新しいテレビCMを4月から放映し、販売をさらに伸ばしていきます。

また、デザートについては、昨年ルナ物産に増強した生産ラインを活用するとともに、個食デザートの商品力を強化していきます。



14



15

【市乳事業分野（ヨーグルト）③】

ヨーグルト市場全体の伸びは、横ばい傾向にあります。当社は、ガセリ菌SP株ヨーグルト商品群の効果により機能性ヨーグルトを中心に市場を上回る伸びを示しています。今後も利益の柱であるヨーグルトの販売拡大に努めています。

【市乳事業分野（2019年上期 ヨーグルト）】

生産体制の再構築については、名古屋工場を豊橋工場へ統合し、より効率的な生産体制を構築していきます。市乳事業の収益改善に向け、着実に取り組んでいきます。

14

15

事業別取組み ~2020年3月期業績予想(ニュートリション)~

2020年3月期 通期業績予想

【ニュートリション事業分野】

	2019年3月期	2020年3月期	増減額	前期比
売上高 (内訳)	194	201	+7	103.3
機能性食品	47	53	+6	111.0
粉ミルク等	146	148	+2	100.8

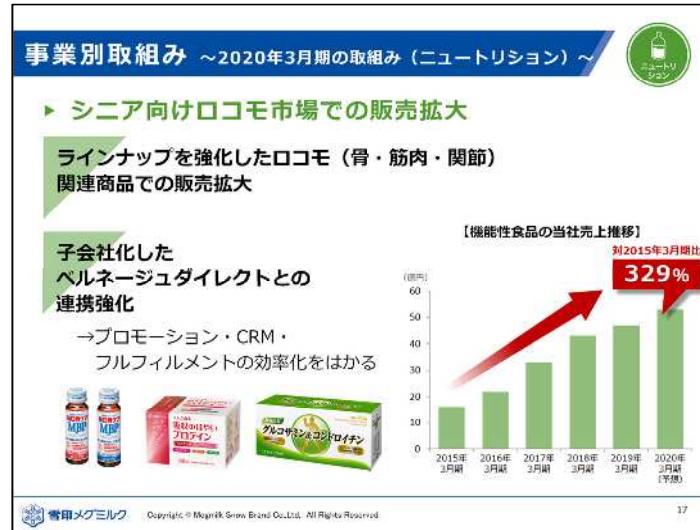
▶ 機能性食品：シニア向けロコモ*市場での販売拡大と利益貢献
▶ 粉ミルク等：母乳研究を活かした商品力強化

※「ロコモティブションドローム」(略称：ロコモ)：運動器の障害により、歩行や日常生活に支障のある状態。

雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.



16



17

【ニュートリション事業分野(2020年3月期業績予想)】

ニュートリション事業分野についてです。
乳製品セグメントのうち、ニュートリション事業分野の売上高は、
増収を見込んでいます。

機能性食品で前期比111%、粉ミルクなどで前期比100.8%を見込みました。

【ニュートリション事業分野(2019年取組)】

機能性食品については、シニア向けの「ロコモ」市場が
拡大してきており、毎日骨ケアM B Pをはじめとした、
商品ラインナップで販売を拡大していきます。

昨年、子会社化した通販会社のベルネージュダイレクトとの連携を
強化し、機能性食品のさらなる販売拡大を目指します。

事業別取組み～2020年3月期業績予想（飼料・種苗）～

2020年3月期 通期業績予想
【飼料・種苗セグメント】

(億円、%)

	2019年3月期	2020年3月期	増減額	前期比
売上高	460	452	△8	98.2
営業利益	11	9	△2	77.3

▶ 飼料事業：総合提案型営業と効率化による収益力強化
▶ 種苗事業：自社開発商品による販売拡大

雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Snow Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

【飼料・種苗事業分野（2020年3月期業績予想）】

飼料・種苗事業分野の業績予想は、減収減益を見込んでいます。
飼料事業での、効率化による収益力強化や
種苗事業での、自社開発商品による販売拡大などに取り組みます。



【飼料・種苗事業分野（2019年上期 取組み）】

飼料分野では、ホクレンくみあい飼料株式会社様と雪印種苗株式会社の合併会社を設立し、新工場建設などの取り組みを含め、高品質で低コストの飼料生産を目指します。

持続的成長に向けた取組み

CSR領域	CSR重要課題 (マテリアリティ)	対象SDGs
食と健康	乳（ミルク）による食と健康への貢献	
酪農	持続可能な酪農への貢献	
環境	環境負荷の低減	
人と社会	多様な人材が活躍できる職場の実現	
	地域社会への貢献	

雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

20

【持続的成長】

雪印メグミルクグループの持続的な成長に向けた取り組みについてです。当社グループでは、2018年に新たなCSR方針を策定し、CSR重要課題「マテリアリティ」を定めました。

今期では、KPIを設定し、取り組みを加速させていきます。ミルクによる食と健康への貢献、持続可能な酪農への貢献などの課題に、引き続き取り組みます。

長期ビジョンに向けて

位置付け	中期経営計画		
	第1ステージ 2017～2019	第2ステージ 2020～2022	第3ステージ 2023～2026
Transformation (変革) の始動 グループ経営の始動・推進	Transformation (変革) の始動 グループ経営の展開強化	Renewal (進化) へ グループ経営の加速・進化	
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・収益基盤の複数化 キャッシュフローの最大化 ・生産体制進化への着手 	<ul style="list-style-type: none"> ・収益基盤の確立 ・4事業分野による収益の安定的創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産体制進化の本格始動 ・調達・生産体制の確立

雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

21

【グループ長期ビジョン2026（ロードマップ）】

事業ポートフォリオの変革、事業成長を支える生産体制の進化、グループ経営の推進など引き続き、長期ビジョンの達成に向けて取り組んでまいります。


 未来は、ミルクの中にある。
雪印メグミルク

2019年 3月期
決算報告

2019年5月13日

1

2019年3月期 | 連結損益計算書

(億円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額
売上高	5,961	6,033	+72
営業利益	193	172	▲21
営業外損益	+16	+17	+1
経常利益	209	190	▲19
特別損益	▲19	▲37	▲18
税引前利益	190	152	▲37
純利益*	133	107	▲26

*親会社株主に帰属する当期純利益

内訳 【営業外損益】

- 金融収支* : +2億円、持分法投資損益 : +9億円
- 【特別損益】
- 減損損失 : △16億円 災害による損失 : △5億円

*金融収支 = 受取利息 + 受取配当金 - 支払利息

配当	普通配当 40円	連結配当性向 25.2%
----	----------	--------------

2

【連結損益計算書】

2019年3月期における当社グループの
売上高は6,033億円 前期比72億円の増収、
営業利益は172億円 前期比21億円の減益です。

経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益におきましても
減益となりました。

今期の1株当たり配当は、40円といたします。
配当性向は、25.2%となります。

2019年3月期 連結営業利益増減要因の内訳			
2018年3月期	2019年3月	増減額	
193億円	172億円	▲21億円	
増益要因 合計	+46		
販売単価差	+35		
製品構成差	+8		
宣伝促進費の減少	+3		
減益要因 合計	▲67		
オペレーションコストの増加	▲20		
販売物量減少による利益減	▲17		
固定経費の増加	▲16		
原材料コストの増加	▲10		
その他	▲4		

(補足) 主な要因を記載しています。内訳の詳細は、決算短信の補足情報をご参照ください。

Copyright © Meiji Seika Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

3

2019年3月期 連結貸借対照表			
	2018年3月期	2019年3月期	増減額
流動資産	1,421	1,488	+67
固定資産	2,091	2,105	+14
総資産	3,594億円 (前期比 +82億円)		
増減要因			
【流動資産】			
➢ 売上債権 :		+54億円	
➢ たな卸資産 :		+17億円	
【固定資産】			
➢ 投資有価証券 :		+61億円	
自己資本比率	46.3%		

Copyright © Meiji Seika Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

4

【連結営業利益の増減要因の内訳（実績）】

乳製品セグメントでは、
価格改定・容量変更の実施に伴う
販売単価差による増益要因があったものの、
乳価改定の影響や原材料コスト、
販売物量減少による利益減から減益となりました。

飲料・デザート類セグメントでは、
機能性ヨーグルトの販売が拡大したものの、
オペレーションコストや減価償却などの
固定経費が増加したことなどから減益となりました。

結果として増減益ネットでは前期比21億円の減益となりました。

【連結貸借対照表】

資産合計は3,594億円 前期比82億円の増加です。
流動資産の増加は、
売上債権が54億円、たな卸資産が17億円増加したことが主な要因です。
固定資産の増加は、
投資有価証券が61億円増加したことが主な要因です。

負債合計は、社債を100億円発行したものの、
借入金の返済（ネットで131億円）などにより減少しました。

純資産合計は1,687億円 前期末比114億円の増加です。
株主資本等が112億円増加しました。
利益剰余金が82億円、その他有価証券評価差額金が41億円
増加したことが主な要因です。

連結経営数値ですが、連結自己資本比率は46.3%、
前期末比で2.2ポイント改善しております。

4

2019年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書		
主な内訳		
営業CF +219億円		(前期)
税金等調整前当期純利益	152億円	+228億円
減価償却費	159億円	
減損損失	16億円	
売上債権の増加額	▲55億円	
たな卸資産の増加額	▲21億円	
投資CF ▲142億円		
有形及び無形固定資産の取得による支出	▲158億円	
財務CF ▲73億円		
社債 借入金増減 配当金の支払額	99億円 ▲131億円 ▲27億円	▲129億円
現預金増減額	+4億円	
有利子負債	717億円	

雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

5

2020年3月期 連結損益計算書			
業績予想			
	2019年3月期	2020年3月期	(億円) 増減額
売上高	6,033	6,150	+116
営業利益	172	180	+7
経常利益	190	195	+4
親会社株主に帰属する当期純利益	107	120	+12
配当	普通配当	40円	連結配当性向 22.6%

雪印メグミルク Copyright © Meiji Milk Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

6

【連結キャッシュ・フロー計算書】

キャッシュ・フローについては
営業活動によるキャッシュ・イン219億円と、
投資活動によるキャッシュ・アウト（▲）142億円、
さらに財務活動によるキャッシュ・アウト（▲）73億円の結果、
現預金残高4億円の増加となりました。

【連結損益計算書（業績予想）】

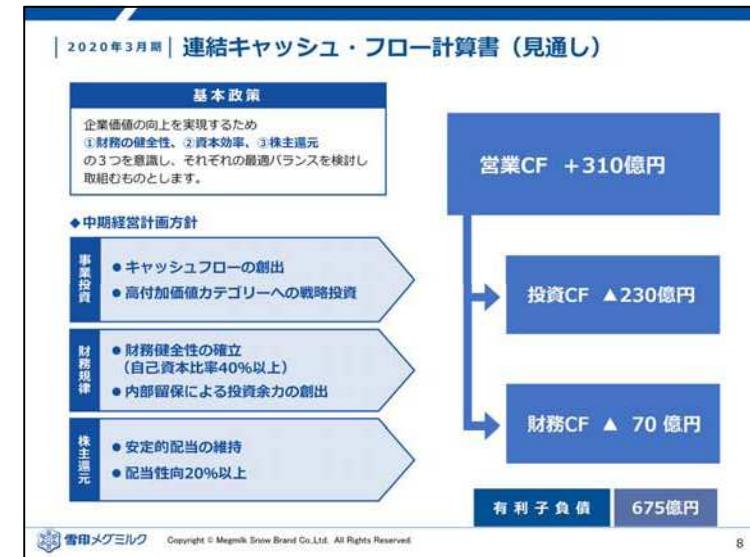
連結業績予想についてです。
売上高は6,150億円 前期比116億円の増収、
営業利益は180億円 前期比7億円の増益を見込んでいます。
親会社株主に帰属する当期純利益は、12億円の増益、
1株当たり配当は、40円を予定しております。
配当性向は、22.6%となります。

2020年3月期 連結営業利益増減要因の内訳（業績予想）		
2019年3月期	2020年3月	増減額
172億円	180億円	+7億円
増益要因 合計		+99
販売単価差		+61
製品構成差		+22
販売物量増加による利益増		+16
減益要因 合計		▲92
原材料コストの増加		▲38
固定経費の増加		▲29
オペレーションコストの増加		▲10
宣伝促進費の増加		▲10
その他		▲5

(補足) 主な要因を記載しています。内訳の詳細は、決算短信の補足情報をご参照ください。
2020年3月期計画前堤為替レート 1米ドル=111円
為替換算度（営業利益ベース） 1円高 +1.5億円

Copyright © Meiji Shrine Brand Co.,Ltd. All Rights Reserved.

7



8

【連結営業利益の増減要因の内訳（業績予想）】

業績予想の営業利益の増減要因についてです。

乳製品セグメントでは、3億円の増益を見込みました。
労務費を含む固定経費の増加や原材料コストが増加しますが、主力商品の販売拡大による、利益増に取り組みます。

飲料・デザート類セグメントでは、7億円の増益を見込みました。
原材料コストや、労務費、そのほかのコストの増加が見込まれる中、コスト吸収策のひとつとして、市乳商品の価格改定を実施させていただきました。
販売単価差やプロダクトミックスの改善などにより利益増に取り組みます。

飼料・種苗セグメント、その他セグメントを含め、結果として、増減益ネットでは前期比7億円の増益を見込みました。

【連結キャッシュ・フロー計算書（見通し）】

連結キャッシュフローの見通しについてです。

今期は、営業CF 310億円を財源として、投資CFに230億円、財務CFに70億円を配分予定です。

財務規律の面では、財務健全性の確立と内部留保による投資余力の創出をすすめてまいります。

株主還元としては、安定的配当の維持、配当性向20%以上を踏まえ、配当金の支払いを行う予定です。

結果として当期は、リース債務を含みます有利子負債残高は675億円を予定しています。

長期ビジョンで定めたキャッシュフロー配分方針に沿って、「財務の健全性」、「資本効率」、および「株主還元」のバランスをとり、企業価値向上を目指します。

未来は、ミルクの中にある。



本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した見通しであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の予想数値と異なる場合があります。